

# 2019 PROGRAM

松山ブンカ・ラボ  
2019年度プログラム

# 松山 ブンカ・ラボ

## 市民と文化とまちをつなぐ支援事業

松山ブンカ・ラボは芸術文化を通して  
ひとりひとりの表現や生活を大切に社会づくりを目指します

愛媛大学 社会共創学部  松山ブンカ・ラボ

## ARTPROJECT / WORKSHOP



### 松山リサーチプロジェクト 全8回

アートユニットKOSUGE1-16としても活躍する美術家・土谷享と一緒に、参加者の得意分野や知識、経験などを活かして松山の文化をリサーチしていくサークル活動です。2020年度にはリサーチに基づいた成果発表へと結実させます。

日程 ▶ 第1回7月27日(土) 対象 ▶ どなたでも  
14:00~16:00 (以後、月1回程度開催) 定員 ▶ 15名  
会場 ▶ 松山アーバンデザインセンター ほか



土谷 享 KOSUGE1-16・美術家

1977年、埼玉生まれ。高知県佐川町在住。美術家ユニット KOSUGE1-16代表。アートが身近な場所で生活を豊かにしていく存在となることを目的に、参加型の作品を通して、参加者同士あるいは作品と参加者の間に「もちつもたれつ」という関係をつくりだす活動を行っている。近年では「えひめさん物語 ものづくり物語」に参加。その他、KOSUGE1-16としての主なアートプロジェクトに、「SAWACHI PROJECT」(Firstsite、コルチェスター英国、2019)、「MUCHI SCRAMBLE」(高知県立美術館、2018)、「Playmakers Sendai」(せんだいメディアテーク、2016~2018)、「どんどこ! 巨大紙相撲」(2004年から全国各地にて開催) など。

## SYMPOSIUM

### シンポジウム

## いきる、つくる、くらす~ 解き放つアート

日程 ▶ 11月2日(土) パネリスト ▶ 上田假奈代 (NPO法人こえとことばとこころの部屋(コロールム)、詩人)、  
時間 ▶ 14:00~17:00 久保田 翠 (認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ) ほか  
会場 ▶ 愛媛大学城北キャンパス 南加記念ホール ※詳細決定次WEB等で発表します。

企画: NPO法人クオリティアンドコミュニケーションオブアーツ

## シンポジウム&文化サポートプログラム公開選考会 公共性とは何か? 市民協働とは何か? ~文化活動から考える

日程 ▶ 2月15日(土) パネリスト ▶ 小川智紀 (認定NPO法人STSスポット横浜)、  
時間 ▶ 13:30~17:00 宮下美穂 (NPO法人アートフル・アクション)、  
会場 ▶ 愛媛大学城北キャンパス (場所未定) 桃生和成 (一般社団法人Granny Ridetof代表理事) ほか  
※詳細決定次WEB等で発表します。

お申込み ▶ メールまたは参加フォーム(右のQRコード)よりお申込み下さい。  
※名前、住所、電話番号、年齢を明記  
メールアドレス: bunkamatsuyama@gmail.com  
お問合せ ▶ 松山ブンカ・ラボ 070-3795-5403

参加費無料  
(全プログラム)

主催 — 愛媛大学社会共創学部 松山ブンカ・ラボ  
共催 — 松山市/松山市文化創造支援協議会  
後援 — 松山アーバンデザインセンター

## SCHOOL



### まちと文化とアートの学校 全9回

アートの視点を切り口にさまざまな領域にわたる現代社会の諸問題について考えていきます。文化、芸術、福祉、教育、まちづくりなどについて、新たな発想や視点から考えていきたい方に最適です。

時間 ▶ 14:00~16:00  
会場 ▶ 愛媛大学 城北キャンパス総合研究棟2 (3階・ラーニングcommons)  
定員 ▶ 30名

#### 2019年度テーマ

「まちと文化」 まちを舞台にしたアートプロジェクトの事例や方法論から自分たちが暮らす「まち」を時間軸から捉えなおし、現在の生活と未来の生活について考えていきます。

「被災と文化」 被災地における災厄の悲しみから日常の営みを取り戻していく事例を通じて、生活と表現が密接な関係にあることを考えていきます。

「表現と文化」 例えば表現によって生活のなかで抱える「生きづらさ」から救われている人たちがいます。人間の営みと表現の関係について、福祉の現場や美術館等の事例を通して考えていきます。

#### SCHEDULE

- ① 6月22日(土) まちと文化I~まちとアートプロジェクト ——— 土谷 享 (美術家、KOSUGE1-16)
- ② 7月20日(土) まちと文化II~まちを再発見する方法 ——— 尾崎 信 (松山アーバンデザインセンター・ディレクター)
- ③ 9月28日(土) 被災と文化I~かなしみを綴ること ——— 高森 順子 (愛媛大学 コミュニティ・コラボレーションセンター助教)
- ④ 10月19日(土) 被災と文化II~文化に何ができるか、震災後の東北で始まっていること ——— 佐藤 李青 (アーツカウンシル東京・プログラムオフィサー)
- ⑤ 11月16日(土) 表現と文化I~福祉でもないしアートでもない ——— 山森 達也 (アーツカウンシルみやぎ・プログラムオフィサー)
- ⑥ 12月7日(土) 表現と文化II~生きづらさと向き合うアート ——— 今井 朋 (アーツ前橋・学芸員)
- ⑦ 1月25日(土) 表現と文化III~学びの場を考える ——— 豊島 吾一 (今治ホホホ座)
- ⑧ 2月22日(土) 表現と文化IV~対話を紡ぐダンス ——— 砂連尾 理 (振付家、ダンサー)
- ⑨ 2月23日(日) 番外編表現ワークショップ ——— 多田 淳之介 (演出家、東京デスクロック主宰)



## WORKSHOP



## こどもラボ

学校やお家では叱られてしまうようなことでも、それはあなたの大切な表現かもしれません。遊んでもいいし、遊ばなくてもいいよ。歌ってもいいし、歌わなくてもいいよ。そんなゆるやかな時間を創っていきます。

### Vol.1 夏休みこどもワークショップ

#### 防災ワークショップ

~そのとき、自分だけは大丈夫!??なワケないでしょ!

今もし地震がきたら!??どうやって逃げよう? どうやって助けよう? 遊びながらシミュレーションするよ。  
日程 ▶ 8月18日(日) 定員 ▶ 15名  
時間 ▶ 13:00~16:00 ファシリテーター ▶  
会場 ▶ シアターねこ 土谷 享 (美術家)  
対象 ▶ 小学校3年生~6年生

### Vol.2 冬休みこどもワークショップ

#### ことばとからだで遊ぼう

言葉と表現をテーマに小さな創作体験をしていきます。思っていることを言葉にするって難しいね。言葉にしたら本当に伝えたいことがポロポロとこぼれ落ちてしまうこともあるよね。言葉をつたえたり、絵にしたり、ダンスにしたりしてみよう。  
日程 ▶ 12月28日(土)、29日(日) (全2回) 詳細時間未定  
会場 ▶ シアターねこ  
対象 ▶ 小学校3年生~6年生  
ファシリテーター ▶ 有門正太郎 (俳優、演出家) ほか

#### 考え 対話

### こどもの表現を考えるラボ

学校以外のコミュニティや関係から生まれる「学び」や「表現」について考える対話の会です。冬休みこどもワークショップ「ことばとあそびの会」の前後に開催します。

日程 ▶ ①12月9日(月) 定員 ▶ 15名  
②1月20日(月) コーディネーター ▶  
時間 ▶ 19:00~21:00 阿比留ひろみ  
会場 ▶ シアターねこ (一般社団法人あひるタイガ社)  
対象 ▶ 子どもの表現活動に興味のある方ならどなたでも ファシリテーター ▶  
有門正太郎 (俳優、演出家) ほか  
※詳細決定次WEB等で発表します。

#### 考え 対話

### 松山アーティストミーティング

ダンス、演劇、美術、音楽、文学などジャンルを超えて、アーティストやアーティストを支える立場の人たちが一堂に集い、問題意識や課題を共有していきます。  
日程 ▶ 不定期開催 (3回開催予定)  
会場 ▶ シアターねこ ほか  
※詳細決定次WEB等で発表します。

#### 考え 対話

### ブンカラボミーティング

少人数で松山の文化、アートについて対話する会です。まちと文化とアートの学校での議論をより深めてみたい方や、松山ブンカ・ラボのさまざまなプログラムを内側からサポートしていきたい方が定期的に集まります。  
日程 ▶ 定期開催 (月1回程度)  
会場 ▶ 松山アーバンデザインセンター  
※詳細決定次WEB等で発表します。



有門正太郎 俳優・演出家

1975年生まれ北九州市出身。舞台本職主筆「富良野塾」、泊篤志代表「飛ぶ劇場」を経て、2005年「有門正太郎プレゼンツ」を始動。「笑顔になれれば何でも出来る」を合言葉に作、演出も務める。高校演劇専科での講師経験を活かし、北九州芸術劇場「日韓合同キャン〜チャレンジ! えんげき〜」総合演出、かすが市民文化祭「演劇×自分史」作・演出も務める。最近では空想写真ワークショップを全国各地で行い、小中学校でもアウトリーチ活動をしている。主な出演作品 富良野 Group公演「明日、悪徳で」「屋根」[作・演出: 倉本聰]など。2016年佐藤佐吉賞優秀主演男優賞受賞。[一財] 地域創造リジョナルシアター登録演劇アーティスト。

### 2020年度文化サポートプログラム ~あなたのアイデアを応援します

松山ブンカ・ラボとの共催事業として実施する文化事業企画の提案を募集します。一過性のイベントではなく多様な市民との関係や対話が生みだせる「公共性」のある企画の応募をお待ちしております。

募集対象 松山市内で文化事業実施予定の団体、個人  
対象事業 地域性、将来性、公共性のある文化事業(あらゆる文化的表現活動や文化に関する調査研究事業)  
事業実施時期 2020年5月~2021年2月  
決定方法 一次書類選考、二次公開選考(一次選考通過の企画提案者プレゼンテーション)により決定します。  
※募集要領等のプログラム詳細は松山ブンカ・ラボWEBサイト等で発表します。(10月頃を予定)

松山ブンカ・ラボのプログラムはどなたでも参加できます。申込みをするにあたって不明なことがある方や、障害をお持ちで不安や心配ごとのある方など、いつでもご相談ください。お待ちしております。



# 2018 PROGRAM REPORT

## 松山ブンカ・ラボ 2018年度プログラム レポート

松山ブンカ・ラボは  
市民ひとりひとりが芸術文化を通じて  
社会のさまざまな分野、領域に参画していくための、  
きっかけづくりをしています。  
アートを切り口にして新しい考え方や視点と出会うために、  
思いを巡らせ、対話を重ねていった  
ブンカ・ラボ1年目の活動をレポートします。



**芸術文化**が地域振興や経済活性の手段として用いられることを多く見かけるようになりました。経済的な豊かさや地域の賑わいが生まれることも大切なことです。一方で、芸術文化、アートそのものが、日常生活や私たちの内面に何をもたらしているのかという点について、語られることは多くありません。キックオフシンポジウム『**アートは社会の役に立つのか？～文化芸術とまちづくり**』（2018年11月3日／参加者数130人）では、いま一度、アートそのものの価値について考



キックオフシンポジウム  
『アートは社会の役に立つのか？～文化芸術とまちづくり』



まちと文化とアートの学校  
第1回〈再考！アートは社会の役に立つのか？〉

えていく議論が展開されました。パネリストには、文化政策研究者として著名な伊藤裕夫氏、民間シンクタンクで文化政策の調査研究に携わる大澤寅雄氏、松山のアートシーンで長年活動を続けるNPO法人クオリティアンドコミュニケーションオペアーツの徳永高志氏、東京都小金井市のNPO法人アートフルアクションで市民協働のプロジェクトを多角的に展開している宮下美穂氏をお招きしました。シンポジウムでは「関係性が紡がれる社会を構想していく」ということを「まちづくり」として位置付けて、市民協働のアートプロジェクトの事例をもとにこの考え方の共有をはかっていきました。いろいろな市民が関わることで余白のある社会にしていけるために、アートの視点をどのように活かしていけるのでしょうか。「アートはわからない」と言われがちなのは、その表現が未知のものであったり共感できなかったりするからでしょう。しかしこの「わからない」に向き合うこともまた、私たちに必要なかもしれないと気づかされる発言が相次ぎました。例えば「生まれたての価値」（大澤寅雄氏）や「動的な定まらない価値」（宮下美穂氏）という発言は「わからないもの」に価値を見出そうとする積極的な態度から生まれた言葉です。わからない価値や知らない文化との向き合い方は、社会全体が抱える課題のひとつです。対立や衝突が絶えない世界のなかで「定まらない価値」としてのアートは、経済的な価値以上に私たちにもたらすものがあるかもしれません。

このようにアートを大きな社会の文脈のなかで理解し、具体的な事例から学んでいくプログラムとして『**まちと文化とアートの学校**』があります。第1回『**再考！アートは社会の役に立つのか？**』（2018年12月15日／参加人数36人）では、シンポジウムのテーマに立ち返り「役立つとは何か？」という切り口で議論を重ねました。アートを自分事として考えることは容易ではありません。ところが、アートがお金を生み出すかどうかという話題をきっかけとして、参加者の発言が活発になっていったのは面白い現象でした。でもそんな議論に対して違和感を持つ参加者もいたようです。ある参加者から絞り出すように発せられた「アートは誰かを救うものではないか？」という問いかけは第2回以降への架け橋となるものとなりました。第2回『**草の根の居場所づくり**』（2019年1月26日／参加者数30人）では、京都府舞鶴市で誰に頼まれるでもなく勝手に私設公民館を立ち上げた浦岡雄介さん（文化交流施設いさぎ会館）をゲストにお招きしました。「勝手に面白いことをやっている」いさぎ会館

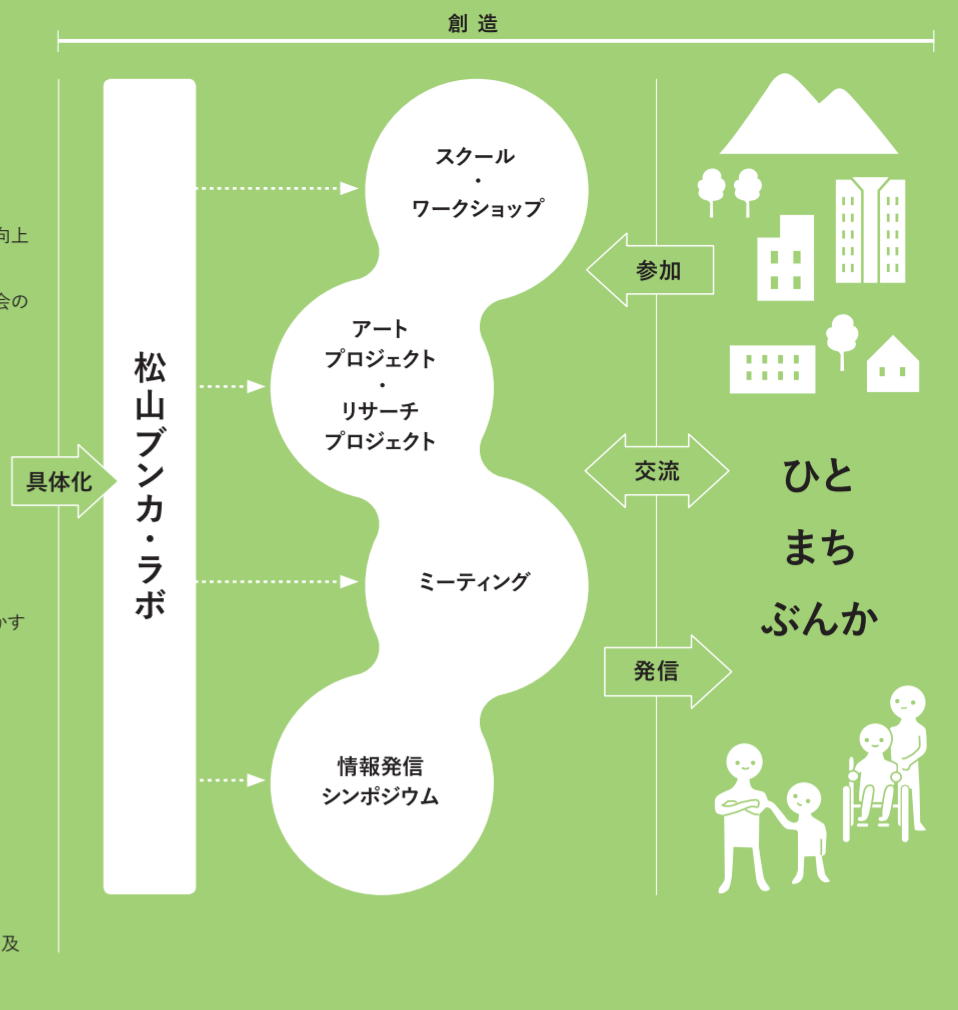
### 松山市文化芸術振興計画

将来ビジョン  
「市民全員が“まつやま文化人”」

- 基本理念
- 文化芸術で市民の創造性や表現力の向上を目指す
  - 文化芸術で心豊かで活力ある地域社会の形成を目指す
  - 文化芸術で市民の誇りと絆を深め、世界や未来へつなぐ

- 目標
- 文化芸術に接する機会を増やす
  - 多様な人々が文化芸術を創造する
  - 俳句やことばを軸とした松山の個性を伸ばす
  - 文化芸術の創造性を様々な分野に活かす
  - 文化創造に関わる人を増やす

- 戦略
- 【総合情報戦略】  
総合情報サイトを構築
  - 【文化創造戦略】  
文化芸術の継承、保護や文化創造の仕組みを構築
  - 【ことば文化発信戦略】  
俳句を軸としたことば事業の更なる普及



松山市は2018年3月に「松山市文化芸術振興計画」を策定しました。この計画を実現するためのプログラムを企画・実施していく事業が愛媛大学社会共創学部/松山アートまちづくり寄附講座、すなわち松山ブンカ・ラボです。公・民・学の協働による松山市文化創造支援協議会（愛媛大学、NPO法人シアターネットワークえひめ、NPO法人クオリティアンドコミュニケーションオペアーツ、松山市文化協会、松山市）が愛媛大学に資金を寄附することによって設置されました。

の活動はひとりひとりの「表現」を大切にしていました。例えば、学校で居づらい思いをしている子どもが遊びに来ます。近所のお年寄りもお茶を飲みに来ます。ひとりひとりを大切にしていることが、それぞれのいろいろな「表現」を楽しむことへとつながっているのです。地域で暮らす人たちにとって、いさぎ会館という「文化」が日常の拠り所になっていました。行政が作った仕組みや学校のような場所とは違うところで、このような自由で公共的な「居場所」があちらこちらにあったら、



まちと文化とアートの学校  
第2回〈草の根の居場所づくり〉



まちと文化とアートの学校  
第3回〈市民・地域・福祉・教育と向き合うアート〉



松山アーティストミーティング

どんなに素敵でしょうか。一方で、公的な仕組みのなかで劇場を市民の広場として機能させているのが第3回『**市民・地域・福祉・教育と向き合うアート**』（2019年2月23日／参加者数35人）にお招きした演出家・多田淳之介さん（東京デスロック主宰）の活動です。多田さんは公共ホールの芸術監督としてアートを地域社会に還元するのかなささまざまな市民協働のプロジェクトを実践してきました。そこから見てきたのは、日常の営みをユニークな視点で再構築する演出家ならではの眼差しです。このようなアーティストの役割は、どんな地域であっても求められていることですが、地方都市ではアーティストはさまざまな困難を抱えており、地域社会のなかでの立ち位置を見出しづらい現状があります。

そんなアーティストの抱える課題や問題意識を共有する機会となったのが『**松山アーティストミーティング**』（2019年2月23日／参加者数34人）です。松山を中心に活動するダンサー、演劇人、美術家、文化団体関係者が分野を超えてシアターねこに集結しました。アーティスト自身の問題、観客の問題、そしてアートを支えていく制度の問題と、議論はさまざまなレイヤーにまたがりました。このミーティングは今後も不定期に開催する予定です。

松山ブンカ・ラボ2018年度プログラムには延べ300人以上の方が参加しました。市内外で文化活動をされている人、子育てが一段落して面白いことを探している人、分野を超えたつながりを模索している人、行政で働いている人、劇場を運営している人、演劇やダンスなど表現活動をしている人、それぞれの立場やバックボーンが異なる市民が集まることによって「生まれたての価値」が創造される日も遠くはありません。



愛媛大学 社会共創学部 松山ブンカ・ラボ  
（愛媛大学社会共創学部「松山アートまちづくり寄附講座」）

主催 — 愛媛大学社会共創学部 松山ブンカ・ラボ 共催 — 松山市／松山市文化創造支援協議会  
後援 — 松山アーバンデザインセンター